活動紹介

クラブ活動

～月に2回、スポーツと絵手紙を楽しみます～

二日市障害者スポーツセンターにて

絵手紙の川崎先生のご指導で

土曜開所

～月に一度の土曜日、外出体験や、行事を行います。皆さん楽しみにされています～

鳴滝森林公園にて

節分の豆まきは本気でした。

一泊研修旅行

～大阪の紙すき作業所の見学や、宿泊体験をしました～

神戸花鳥園は、きれいな花に囲まれて幸せ気分。かわいいふくろうもいました。

大阪の「紙すき交流センター」を見学しました。皆さん真剣な表情

ちどりの様々な活動をお手伝いしていただける方～お待ちしています。

- **牛乳パック・お酒パックを頂ける方**
  （できれば切り開いて洗ってあるもの）
- **花ばがき・花名刺作りのお手伝い**
  （利用者の方と一緒にはがきや名刺に花を綺麗に飾りつけてみませんか）
- **名刺やリサイクルはがきの販路の紹介**
  （扱っていただける店舗や個人の方のご紹介をお願いします。）
- **レクリエーション等の活動支援**
  （ちどりでは月一回レクリエーションの時間を設けています。又、土曜日開所の時には様々な社会体験を企画しています。その付き添いのボランティアを求めています。）

ご連絡は　ワークショップちどり

086-271-2075

編集後記

この度の「ちどり通信」再刊にあたり、急な原稿依頼にもかかわらず、作成のご理解とご協力をいただきました皆様に、心より感謝申し上げます。また、経験の浅い編集作業に時間もかかり、ご迷惑をおかけしました。これからも、「ワークショップちどり」が地域の皆様に愛される事業所であり続けるよう頑張って参りたいと思っています。（徳永）

ちどり通信

ワークショップちどり

岡山市中区赤坂本町1-2

TEL (086)271-2075

FAX (086)237-2647

皆さんとのちどりを繋ぐ「ちどり通信」再発刊に当たって

ワークショップちどりは丁度今から20年前、平成3年4月にスタートしました。障害児学級に携わっておられた谷川増雄氏が、福祉的就労の場がまだ少ない状況の中で卒業後や長く在宅生活を余儀なくされている方々の就労の場として一戸建ての新たな家屋を提供され、小規模作業所として開設、今日に至っております。

ちどり通信は当初からちどり関係者　後援会の方々、お客様や他の事業所、学校や行政関係者等とちどりを繋ぐ機関誌としてスタートしました。10年間にわたり、隔月に発行を続けてきておりました。その後所内の利用者向け通信として性格を変え続けて参りましたが、この度、地域の中で暮らされる様々な方々と、ちどり利用者をはじめとした障害がある方々とを繋ぐ機関誌として再スタートすることと致しました。

障害がある方の暮らし・働くということ、環境とリサイクル、人の命の輝き等々、紙面を構成する中で皆さんと一緒に歩んで参りたいと思います。ちどり発足当初の思いを大切に、又、東日本の大震災というかつてない未曽有の困難に直面した私たちの社会や人々に思いを馳せながら…。

谷川先生が発刊されていた当時のちどり新聞

ワークショップちどりの源流

谷川　増雄

「ワークショップちどり開設二十年に当たって、開設までの私の足取りをまとめてみます。

1981年は、「国際障害者年」。障害者問題が日本全国で大きく取り上げられ、障害者の「完全参加と平等」が熱く語られました。この年、私は西大寺中学校で障害児学級を担任していて、以後この道を歩むことになりました。

1984年芳泉中学校の障害児学級担任になり、二つの課題を設定しました。

（1障害者年の理念に添った普通学級との交流をどうすすめるか。（対等な立場での取り組み）

（2学区内にある児島湖の浄化にどう関わるか。（環境に対する意識を高める取り組み）

これに答えたのが「リサイクルの葉書や名刺と粉せっけん作り」でした。原料の牛乳パックと廃油は学校の給食現場から回収して、障害児学級が職業科の授業で作製し、PTAなどで販売しました。

1990年4月、芳泉中学校の障害児学級と生徒会や放送部・IRC・科学部の有志が、児島湖で「環境問題現地学習会」を開きました。

翌1991年4月、福祉とリサイクルの「ワークショップちどり」を開設し、3名の障害者と新たな取り組みを始めました。

インタビュー

14年間にわたり、ちどりの紙作りのご指導をいただいています　光畑之彦先生に、お話を伺いました。

― ちどりのルーツは、谷川先生と光畑先生が芳泉中学校障害児学級時代に取り組まれたプロジェクトから始まったとお聞きしています。

「はい。授業の一環として谷川先生が「牛乳パックから再生紙」私が「廃油から粉せっけん」、この二つに取り組んでいきました。障害を持つ子供達と一緒に、環境問題に本気で取り組みました。子供たちの研究発表が認められ、日本環境教育賞も受賞したんですよ。」

― 素晴らしいことだと思います。その後、退職された後、谷川先生の始められた、ちどりのお手伝いをしてくださっているのですね。当時と比べて、今のちどりで行っている紙作りに変化はありますか？

「3年ほど前までは、谷川先生の考案された圧縮機を使って、すいた紙の水分を取っていました。今は、バキューム、つまり水を吸い取る手段を用いていますが、その他の工程にほとんど変わりはありません。すいた直後の紙の厚さは5ミリ。水を切り、ローラーをかけ、ゴミを取り除き、乾かす。紙の重さも1枚1枚手で量ります。

今年には、梅雨時期にカビが生えるという問題が発生し、現在も試行錯誤を続けています。とにかく、何か問題が起きたら、二度と起きない様にすることが大事です。」

― 先生はもともと、受験学年を受け持つ理科の先生だったそうですが・・

「20年前交通事故に遭い、頭と体に障害を受けました。リハビリを行い、教師を続けましたがその頃から、生徒から質問形式で授業を進めて行くようにしたところ、生徒の成績が伸びたのです。一方的に教えるのではなく、自分が勉強をしてわからないところが質問できるようになることが大事だと、思うようになりました。

― 事故に遭われて、先生の人生が大きく変わられたと感じます。先生は障害について、どのように思われますか？

「あの出来事がなければ、今ここにはいないですね。でも私は、障害を持って良かったと思っています。ハンデを持つと肝もすわりますし、何より人の痛みもわかるようになりました。

妻も車に同乗していたので一緒に事故に遭いました。妻もケガを負いましたが、共に頑張りました。」

― 奥様とは毎日山歩きをされているそうですね

「10年前「久米歩こう会」を作り、35名の方と毎月1回、色々な山を歩き、150回続きました。今は妻と二人で歩いています。妻とは、二人で一人。」

色々なお話をお聞かせくださり、感謝しています。これからも、お元気で、ちどりにお越しください。ありがとうございました。

仲間が増えてパワー全開！

石原　啓子

20年の間、4人だった仲間が21人に増えました。

牛乳パックから花はがきや名刺を作り、最近では、メモ用紙まで商品化が出来るようになって来ています。

また、委託作業も箸入れからドックフードの袋詰めへと変ってきましたが、仲間は皆自分の出来る事をパワー全開で頑張っています。

障害者の願いである「障害者が働き、地域で普通の生活を送っている」ことを知って貰いたいです。また多くの方に、ちどり製品を買っていただきたいと思っています。

毎日の作業風景

作業紹介

牛乳パックから再生紙になるまでの工程

地域の方から頂きます

牛乳パックを圧力なべで炊き、中側の部分だけを使います。

ミキサーで液状にした原料を、厚さ５ミリに漉きます。職人技。

型枠によって、紙の大きさが変わります。これは名刺用。

プレス作業

校正・印刷作業

ちどりの花名刺を支えて下さる久保さん。久保さんの手にかかると、お花が生きているようです。

ラミネート機による電気圧縮作業

衆議院議員の原口さんから花名刺をご注文いただいています。

十分に乾かし、汚れを点検、重さを量り、選ばれた紙たちは、商品となって行きます。

紙製品

ちどりで作成する名刺は職種を問わず、全国から注文を頂いています。特にお花付き名刺は手間が掛かる為、少し期間を待って頂きますが、大人気です。はがきに関しても絵てがみをされる方から注文が絶えません。

一昨年から、名刺・葉書だけではなくカレンダー一筆銭・メモ用紙など、新たな商品にも力を入れています。

これからも、牛乳パックからの再生紙でいろいろな商品にチャレンジしていきたいと思っています。

ちどりの商品

ドックフードをインターネット販売されている**(株)ピュアボックス様**の作業をさせていただいています。商品の種類も多く、作業内容は多岐に渡り、毎日数百個～千個を超える作業の依頼がありますが、皆さん熟練の職人さながらに、お客様(ワンちゃん)の喜ぶ顔を想像しながら作業をしています。

委託のお仕事
ドックフード

「美笑」さんのお弁当を配達しています。

市役所をはじめ、市内各所に毎日お弁当をお届けしています。

食べ終わった空き容器の回収にも、作業として取り組んでいます。

委託のお仕事
お弁当